

特集 弥生いこいの広場に行こう!



■ 問い合わせ先 弥生いこいの広場（百沢字東岩木山、☎96-2117、ホームページ <http://www.hirosakipark.or.jp/yayoi>）

4月15日に今年の営業を開始した弥生いこいの広場。一度は行ったことがある人も多いのではないのでしょうか。今回の特集では、かわいい動物さんたちはもちろん、熱い思いで動物さんと向き合う飼育員や北里大学獣医学部との連携、オートキャンプ場などを紹介します。

「動物さんのごはん」

弥生いこいの広場「動物広場」では、50種類の動物さんが生活しています。食事は、飼育員が栄養バランスなどを考え、おいしく食べられるように毎日、丹精込めて作っています。



▲キツネさんのごはん（リンゴとドライフード）

飼育員は、「動物の餌」とは決して言いません。これは、動物福祉（アニマルウェルフェア）の精神に基づくもの。

動物さんの「栄養」、「環境」、「健康」、「行動」、「精神状態」を踏まえ、飼育施設や飼育管理に関する最善のあり方を示し、動物福祉の向上に日々取り組んでいくという考え方をもち、飼育にあたっています。

動物さんのごはんは、市内2店舗のスーパーや農家の皆さんなどから提供いただくこともあります。弥生いこいの広場の動物さんは、地域の皆さんの応援で元気にごはんを食べることができています。



飼育員さんのおはなし



▲小林さんがお世話をしているアナグマさん

私は、千葉県出身で動物園動物の飼育方法などを専門学校で学びました。一番好きな動物はアナグマさん。弥生にアナグマさんがいることがきっかけで、今年の4月から飼育に携わっています。

飼育班は哺乳類班と鳥類班の2つに分かれていて、私は哺乳類班に所属しています。

弥生いこいの広場のお気に入りのポイントは、自然の中に立地していることや来園者の皆さんが気軽に話しかけてくれることです。1年間、飼育に携わってきた中で、動物さんの個性が分かるようになってきました。例えばポニーさんは、おっとりしていたり、やんちゃだったり、一頭一頭性格が違いますよ。

弥生いこいの広場では、動物福祉の向上に力を入れています。例えば、動物さんのごはんを入れるフィーダー（給餌器）を手作りして、ストレスが少ない飼育を心がけています。来園者が動物さんに直接ごはんをあげることができるイベント「もぐもぐタイム」は、月1回実施する予定ですので、のびのびと暮らす動物さんたちに会いに来てくださいね！



飼育員の小林奈央さん



北里大学獣医学部との連携

十和田市にキャンパスがある北里大学獣医学部動物資源科学科動物行動学研究室の皆さんと弥生いこいの広場の連携は、2019（令和元）年から始まりました。

この研究室では、ウマやイヌ、動物園動物の研究を行っています。研究室の皆さんは、動物園動物を対象とする環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の〈幸福な暮らし〉を実現するための具体的な方策）や効率の良い飼育のために、研究の一つのフィールドとして、弥生いこいの広場で活動しています。

動物総選挙 青い森のなかまたち選手権

この企画は、青森県に生息している好きな動物に投票して人気ナンバーワンを決めるものです。2021年はインターネットでの投票を行い、見事、ツキノワグマさんが1位の栄冠に輝きました。

この取り組みのほかに、動物さんたちのフィーダー（給餌器）やブイ（浮き）を使用したおもちゃを製作するなど、動物本来の採食行動を促したり、生活環境を整えたりする取り組みや、SNSを活用して、学生ならではの視点から情報発信を行っています。

